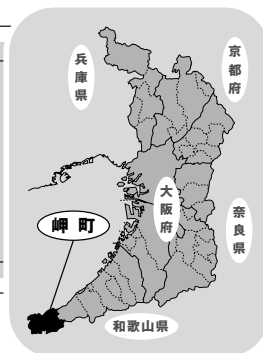


# わたしのまちのPR

ピーアール



## 岬町編

岬町は、大阪府の最南西端に位置し、北は大阪湾に面して対岸に淡路島を望み、東南は和泉山脈によって和歌山県と、東は阪南市と接しています。

孝子越街道（浜街道）から紀伊国へ、また海を通過して淡路、四国へと渡る南海道の要衝として古くから栄えています。現在は、大阪湾ベイエリア（なぎさ海道）の中で、きれいな海と海岸線を有し、和泉山系の豊かな緑に囲まれた自然に恵まれた町です。

また、歴史的に紀州（和歌山県）と文化や政治的に関係が深く、その影響が色濃く残っている地域でもあります。

この岬町の特徴や強みといった事について、企画部企画人事課長の保井さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、岬町の生い立ちから教えていただけますか。

よろしくお願ひします。

明治22年に市町村制が施行されたときは、本町域には深日町、多奈川町、淡輪村、孝子村の2町2村がありました。昭和30年、この4町村が合併して岬町が誕生しました。

私たちの町が合併してできた町だとわかるものが各地域の家庭に伝承されています。それは、みこしを担いだり、やぐらを引いたりする祭の時には欠かせない「押し寿司」にみることが出来ます。それは、押し寿司の具材が合併前の各町村によって違うからです。多奈川はアナゴ、孝子はサバ、深日と淡輪はハモを使います。同じハモを使っている、深日と淡輪では調理法が異なっています。

## 教育フェスタ



毎年、岬中学校の教育フェスタというイベントでも、各地域のボランティアグループが4つの押し寿司を実演して地域文化の伝承に取り組んでいます。このような姿から、もし今後合併によってまちが変わっても、岬町に伝わる4つの味わいや文化などが承継されていくだろうと思っています。

次に、現在の岬町といえばビーチバレーをはじめマリッジが盛んだと思いますが、どのようなものがありますか。

本町には昔から人と海と共に暮らしてきた文化があり、施設やイベントもありますので、春先から夏にかけてマリッジを楽しむために多くの方が訪れます。

4月から6月は、淡輪海水浴場（ときめきビーチ）では潮干狩りをすることができます。府内だけでなく他府県からも毎年家族揃って潮干狩りを楽しみに来られる方がおられます。

夏になれば、みさき公園のプールもありますし、海水浴場も多くの方が来られます。さらに8月上旬には、せんなん里海公園や淡輪海水浴場を主会場に、「大阪マリッジフェスティバル」などのイベントが開催されています。夏の岬町では、海水浴だけでなく、潮

騒ビバレーでビーチバレーを楽しむこともできます。

また、府立青少年海洋センターは、府内で唯一ヨット体験ができるところです。夏だけでなく年間を通してヨットスクールがありますので、海の散歩としてヨットに乗って大阪湾の四季を楽しむのもいいですね。

マリンスポーツの好きな方には魅力的ですね。  
海あり山あり、岬町の豊かな自然について特徴のある点を教えていただけますか。

本町は豊かな自然に囲まれたまちです。まず、海では大阪府内に2箇所しかない自然海岸が本町にあります。淡輪・深日地区の長松海岸と多奈川地区の小島海岸です。なかでも長松海岸は波が穏やかですので磯遊びや磯釣りを楽しむことができます。この自然海岸を守るため、住民の方々がボランティアで美化活動を十数年も続けています。また、古くは吹飯浦ふけいのうらと呼ばれていました。万葉集の中に作者不詳ですが『時津風吹飯乃濱に出で居つつ贖ふ命は妹が為こそ』と詠まれており、その歌碑も建っています。さらに、海岸線沿いには「水際道路」があり、関西国際空港・明石大橋・紀淡海峡を眺めなが

小島海岸



長松海岸の夕日



ら歩くことができます。このエリアは夕日の百選にも選ばれており水平線が赤く染まる夕日を綺麗に見ることができます。

山の方ですが、淡輪地区の愛宕山は知る人ぞ知る桜とツツジのスポットです。海を望む丘陵地に桜が800本、ツツジが5万本植えられており、4月は花が咲き誇っています。その他には、本町のほぼ中心部分にある飯盛山には淡輪駅からのハイキングコースがあり、和泉層群露出地層や古墳等の史跡が点在しています。山頂からは海岸沿いとはまた違った眺望が広がり、ここで飛行機の離発着やヨットを眺めながら昼食をとられる方もいらっしゃいます。

愛宕山のツツジ



また、大阪府指定の天然記念物も町内に数多くあります。高さ10m、幹周り1.5mもあるものが約80本も群生している小島住吉神社のウバメガシや樹齢800年以上とも言われ、4本の幹が1つになっている淡輪船守神社のクスノキは非常にめずらしいものです。また、この淡輪船守神社は豊臣秀頼の命により造られ、本殿は三間社流造、屋根は檜皮葺と桃山式の建築様式を伝えているもので、国の重要文化財に指定されています。

その他にも淡輪ぼらいどの弘殿社のムクの木や金乗寺こんじょうじの大イチョウなどが府の天然記念物に指定されています。

あと文化財ではないのですが、豊臣秀吉のあごひげを植え付けた肉付きの像が理智院りちいんにあります。秀吉が朝鮮出兵時に九州まで船で行く途中、本町の沖合で風波に遭い、谷川港に避難したのですが嵐はおさまりませんでした。その時、理智院の本尊が追風不動であると聞いた秀吉は住職に祈祷させたところ、嵐も穏やかになり、九州に着くことができました。

淡輪船盛神社



橘逸勢の墓



金乗寺の大イチョウ



秀吉はこのことを忘れず、後日、木像に自らのヒゲを抜きあごに植えて納めたと言われています。

府内で岬町にしか残っていない自然海岸は貴重ですね。天然記念物や文化財等とともに後世に伝えていかなくてはなりません。

秀吉のほかにゆかりの人物はいるのですか。

日本三筆のひとりである橘逸勢とその娘の墓が本町にあります。橘逸勢は空海と共に遣唐使として唐に渡った平安前期の政治家です。842年の承和の変の首謀者として捕まり、伊豆へ流される途中の遠江国（今の静岡県西部）で病死したとされています。しかし、娘が遺体を背負い本町まできて葬り、その後、娘もここで死んだと言われています。なぜ、本町まで来たのかわかっていません。

※日本三筆…橘逸勢、嵯峨天皇、空海

二人目は、<sup>きのつらゆき</sup>紀貫之です。土佐日記に『和泉の灘といふ所より出でて漕ぎ行く。海のうへ昨日の如く風

浪見えず。黒崎の松原を経て行く。』『ぬ島といふ所過ぎてたな川といふ所を渡る。からく急ぎて和泉の灘といふ所に至りぬ。』と書かれています。これらを記念して文学碑を黒崎海岸と岬町健康ふれあいセンター「ピアッツァ5」に文学碑が建てられています。

三人目は僧行基です。起源はよくわからないのですが、この地域の山土が瓦に適していたことから瓦製法を伝えたと言われています。

近世以降は谷川港の地の利を活かして、全国的に瓦の販売が行われ、明治時代には「谷川瓦」の名で有名となったことから、瓦の生産が盛んになりました。泉州の各地でも瓦の製造がされていましたが、谷川産の瓦は形・質とも良く、きめ細かくいぶし銀の輝きが独特の光沢があると評判でした。

現存する谷川瓦で最も古いのは、1515年谷川嘉左右衛門の名が刻まれている和歌山県の根来寺の国宝多宝塔にある雁振瓦<sup>がんぷりがわら</sup>です。

さらに、秀吉肉付きの像のある理智院は聖武天皇の命により行基が建てたと言われています。

谷川瓦



先程、文学碑がピアッツァ5に建てられているとお聞きしましたが、詳しくご紹介いただけますか。

「ピアッツァ5」のピアッツァ（piazza）とはイタリア語で広場という意味です。

館内には、温水プールで楽しめる「プールゾーン」、公衆浴場・サウナでゆったりできる「ゆう湯うゾーン」、環境学習ができる「環境考房ゾーン」、フィットネスや陶芸などで楽しめる「いきいきライフゾーン」、カラオケや憩いの広場がある「こみゆにていゾーン」があります。つまり、ピアッツァ5はこれら5つの広場を持つ施設ということなのです。

## ピアッツァ5



また、館外にはアスレチック広場や谷川瓦の鬼瓦がある花の回廊等があります。最近は口コミでこの施設の評判が広がり、町外からの来客が多くなってきています。1日ゆっくと過ごすことができ、自然に囲まれ心と体がリフレッシュできる施設です。

自然と共に健康づくりができるのはいいですね。  
次に、これからのまちづくりについて教えてくださいませんか。

本町の第3次総合計画の後期実施計画が18年度から22年度までとなっています。

総合計画では施策のテーマを5つに分類し「笑顔あふれるいきいきタウン“みさき”」の実現に取り組んでいきます。

第1に『自然のもとで、元気に安心して暮らせるまち』では、町民の幸せな暮らしの基本は健康にあると考え、子どもから高齢者まですべての人々が心身の健康づくりに励み、元気に暮らすことのできる環境づくりに努めていきます。また、高齢者の積極的な社会参加を促進し、長年培ってきた経験と知識を生かして元気に活躍できる機会づくりを進めるとともに、生きがいを持って暮らせる環境づくりにも努めていきます。

第2に『自然にふれあい、心豊かに暮らせるまち』では、まちをつくるのは人であり、人づくりはまちづくりの基盤となる考え、子どもの穏やかな成長を育む環境づくりに努めていきます。また、多様な地域活動や自主的学習を支援し、だれもが生涯を通じて学習できる環境の整備を進めていきます。

第3に『自然を生かして、いきいき魅力満載のまち』では、地域の活力は自然環境を生かした産業に現れ、まちの魅力にも繋がると考え、人々が1年を

通じて身近に親しめ、心身ともにリフレッシュできる、ふれあいと交流豊かな魅力ある観光・レクリエーションのまちづくりを推進するとともに、積極的に情報発信することにより、町のPR活動とイメージアップを図っていきます。

第4に『自然を守り、安全で快適に暮らせるまち』では、貴重な自然環境を後世に守り伝えていくことが、今を生きる私たちの使命であると考え、町民・事業者と協働し、ゴミの減量化、リサイクルや環境美化の徹底等に取り組めます。また、防災や防犯に配慮するとともに、町民や来訪者が自然とふれあい、心身がやすらげるまちづくりを進めていきます。

最後の『自然と共生し、便利に暮らせるまち』では、人も自然も心地よいと感じる環境のバランスが真の共生であると考え、自然との共生を図りながら道路、公園や上下水道の都市基盤の整備を推進していきます。また、関西国際空港2期工事に係る土砂採取跡地の有効活用をはじめ、土砂の搬出に使用した栈橋を「海釣り公園」として活用したり、町の特産品を販売できる「道の駅」の整備を進めており、町の活性化に役立てていきたいと考えています。

以上の施策に取り組むことにより、平成22年度には「豊かな自然に恵まれ、健康で活気あふれるまち」となるよう頑張っていきたいと思っています。

自然と共生し、笑顔あふれるいきいきタウンの実現ができることを期待しております。最後に、自治大阪も新年号ですので、課長の今年の抱負をお聞かせ願います。

昨年は、若者だけでなく高齢者の方々も知的に活き活きできるイベントとして「<sup>なんのわきんこう</sup>淡輪吟行」を開催しました。淡輪地域にある前方後円墳や船守神社などを巡って、俳句を読む会です。会社を退職する団塊の世代では田舎暮らしが注目されていますが、都会に近い岬町で田舎的な自然と都会的な自由に包まれて文化的に過ごして定住していただけるよう、今年も様々な工夫を凝らしていきたいと思っています。

今後のご健闘をお祈りします。

本日は、お忙しいところありがとうございました。